



## バイオマス利活用の可能性を探る —第1回南丹市バイオマス利活用推進委員会—



▲委員会ではバイオマスエネルギーの利活用の可能性について話し合われました

九月四日、バイオマスエネルギー活用の方角性や事業化の可能性を探る「南丹市バイオマス利活用推進委員会」を、南丹市国際交流会館で開催し、十四人の委員が出席しました。

バイオマスとは、石油などの化石燃料を除く、間伐材やおがくず、家畜のふん尿など生物由来の資源のことをいいます。地球温暖化に影響する二酸化炭素の排出量削減や、石油に代わるエネルギー資源としてバイオマスエネルギーの利活用は、環境保全だけでなく、農林業の活性化にもつながり、今後ますます重要

性が高まると期待されています。

南丹市では、家畜ふん尿などを活用したメタン発酵施設や、事業系生ゴミを利用した民間施設のバイオガスプラントによる発電などがすでに稼動しています。今後は、生ゴミや下水道汚泥、林業廃棄物などのバイオマスの利用を検討しています。

委員会は、技術的な観点からバイオマスの利活用についての方角性を探るのが狙いで、大学教授や林業、廃棄物処理関係者、市職員らで構成しています。

この委員会は本年度、市が資源エネルギー庁の「バイオマス等未活用エネルギー事業調査事業」のバイオマスタウン枠の指定を受けたことから発足したもので、京都府内では初の指定となりました。

第一回委員会では、京都大学大学院工学研究科の津野洋教授を委員長に選んだあと、討議に移り、バイオマス原料としての間伐材利用などの意見が交わされました。

今後、委員会において検討が進められ、来年二月に報告書がまとめられます。

## 文覚ふれあい公園に 新しいテントを整備

—文覚ふれあい公園

キャンプ場—

八木町室橋の文覚ふれあい公園に、キャンプ用テント十張を、新たに整備しました。同公園は、NPO法人八木町スポーツ協会に管理を委託しています。

キャンプ場は、静かで落ち着いた自然環境にあり、京阪神からも多くの人が訪れます。今回、新たに整備したテントは、八木町に工場のある「ジヤトコ株式会社」より、寄贈していただいたもので、利用者への貸し出し用として活用します。



▲文覚ふれあい公園に寄贈されたテント

## 一〇七歳を迎えられ お祝いの品を贈呈

—市内最長寿者の  
お宅を訪問—



▲市内最長寿者の井尻好二さん(中央)

九月二十一日、市内最長寿者の井尻好二さん(日吉町保野田)宅を、佐々木市長が訪問し、お祝いの品を贈呈しました。京都府からは百歳以上のお祝いとして、南丹広域振興局井上副局長も同席されました。

井尻さんは、明治三十二年十月五日生まれで府内の長寿者では八番目になられます。

お祝いは市長から、さわり織りのベストと花束を、府知事から祝状とさわり織りのクッションが贈られ、市長が「来年もお会いするのを楽しみにしています」と声をかけました。